

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
和気町立佐伯中学校 和気町立和気中学校	和気町教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
佐伯中学校	https://sites.google.com/wake.gse.okayama-c.ed.jp/saeki-jhs/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%94%9F%E6%B4%BB/%E6%95%99%E8%82%B2%E8%AA%B2%E7%A8%8B%E7%89%B9%E4%BE%8B%E6%A0%A1
和気中学校	https://sites.google.com/wake.gse.okayama-c.ed.jp/wake-jhs/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%A1%88%E5%86%85/%E6%95%99%E8%82%B2%E8%AA%B2%E7%A8%8B%E7%89%B9%E4%BE%8B%E6%A0%A1

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
佐伯中学校	同 上	
和気中学校	同 上	

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

「オーストラリアの学校との遠隔交流」や「町内のALTとの対面交流」を教育課程に計画的に配置し、目的意識をもって既習事項を活用する場面を設定するとともに、異文化への興味・関心を喚起し、理解を深めている。

また、英語担当者協議会を開催し、町内小・中学校の英語担当教員が共通理解を図るとともに、ALTの派遣会社とも連携して組織的な取組を推進している。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

<特記事項>

和気町教育委員会のホームページでは、「和気町の英語教育推進」のページを設け、随時、実施状況や取組の様子を発信している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、ますます国際化する社会の中で、グローバル感覚を身に付けた人材を育成するために、英語教育の充実を重要項目と位置付けて行うものである。英語を学ぶことが好きな子どもたちを増やし、さらに国際的な視点をもって、誇れる故郷を様々な形で発信し、地域→県内→国内→世界中の人々と、臆することなく意見を交換しながら和気町を発展させていけるような人材を育成するため、「やりとり」を中心とした「オーラルコミュニケーション」の授業を実施している。

「オーラルコミュニケーション」の授業は、既習事項を活用した多面的なコミュニケーション活動で構成されており、通常の英語の授業で身に付けた知識・技能の活用であり、日常に生きる力の育成につながっている。令和8年3月実施の生徒アンケートでも、約8割の生徒が「英語特区の授業は英語によるコミュニケーション力の向上に役立つ」と回答し、授業の重要性や有効性を実感している。

しかし、「英語の勉強が好きだ」と回答した生徒は45%程度、「外国の人と友達になったり外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と回答した生徒は35%程度であり、英語特区の授業の成果としての、学ぶ意欲や主体性の伸長は見えにくい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

令和8年4月実施の全国学力・学習状況調査では、英語3技能のうち「読むこと・書くこと」において、国や県の平均正答数を下回る結果となった。一方、生徒質問調査では、「英語が得意」「英語が好き」「将来は積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」の設問で、町の肯定的回答率が国や県の結果を上回った。とりわけ、「学校の授業やそのための学習以外で日常的に英語を使う機会」を回答する設問においては、町の結果が国や県を10ポイントを超えて上回っており、英語に触れる環境は整っていることがうかがえる。

以上の結果から、オーストラリアの学校との遠隔交流や町内のALTとの対面交流において少人数のグループ編成や課題解決的なテーマ設定など更なる充実を図ってきたことの成果が、「聞くこと」の力の保持や、英語への意識面で表れているものの、意見交換の場面における主体性をもった即興的な「やりとり」において課題が見られる状況は、知識・技能面と連動していると考ええる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を解決していくためには、「オーラルコミュニケーション」の授業に、より必然性をもたせるとともに、コミュニケーションの楽しさや喜びが実感できるようにしていく必要がある。そのために、各授業の明確な目標設定、英語や外国への興味・関心を喚起し、課題意識を生む授業計画や学習環境づくりなどを推進し、通常の英語科の授業で身に付けた知識・技能を活用する場としての「オーラルコミュニケーション」の授業を充実させていく。さらに、各校に常駐しているALTや英語教育推進担当の地域おこし協力隊員と連携しながら、グローバルな視点や感覚を身に付けることにつながるような協働的な課題に取り組む授業改善と日常的な取組を、令和8年度も継続していきたい。